

ひとなる

発行：白川町教育委員会
 —「白川を愛し、たくましく心の
 あったかい子を育む美濃白川」—

いろいろな人との「ふれあい」

国際交流事業(中学)から

11月～12月にかけて、白川町内の中学生が外国の中学生、または高校生とテレビ会議システムによるオンラインでの交流を行いました（詳しくは右の表）。

この事業は、本年度より本格的に行っているものです。町内の中学生が、これまで英語の授業で学んできたことを元に、海外の生徒と英語でコミュニケーションをする活動を通して、日本や自分に関わることについて発信するよさに気づいたり、伝えることで相手の立場をより深く理解したりすることを目的として行っています。上記の授業では、初めてのオンライン授業ということで、各学校、自己紹介やゲーム等を中心に行いました。2回目は1月～3月に実施する予定ですが、「日本の学校行事を伝える」「日本の遺産を紹介する」「世界の問題に向き合う」等の話題で交流をしようと考えています。日本語でも難しい話題を子どもたちはどのように交流するのが楽しみです。

学校	学年	日	相手国
黒川中	全学年	11/7 (金)	フィリピン
白川中	1年生	12/4 (木)	インドネシア
白川中	2年生	12/18 (木)	インド
白川中	3年生	12/18 (木)	トルコ



「生徒や保護者のインタビューから」

- 外国の中学生と交流しながら、自分のことや考えたことを伝えることが楽しかった。通信が途中でつながらない時があり、その時に相手の子とうまくコミュニケーションが取れない時があつて残念でした。(白川中学生)
- 異文化と交流することは、多文化共生の時代を生き抜く子どもたちにとっては大切なことだと思います。白川では、なかなか外国の人に出会うことがないので、このような機会を大切にしていってほしいです。(たまたま学校を訪問し、外国との交流の場面を見た保護者)

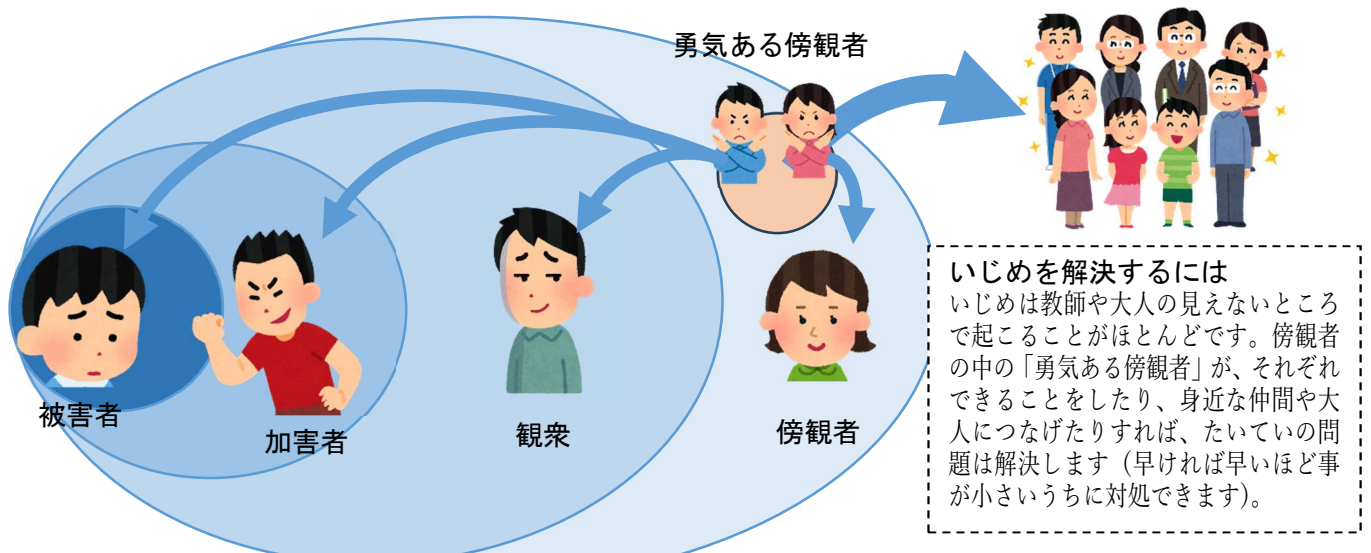
今後、原因を特定し改善します。

「いじめ」について考える!!

時々 自分自身を見つめなおしてみよう!!

先日、栃木県の県立高校や大分市の中学校において、生徒が別の生徒に暴行している様子を撮影したとみられる動画が SNS で拡散されていて、それぞれの教育委員会が調査を進めています。今回はいじめにおける構造を説明しつつ、昨今、私が気になっている点についてお話ししたいと思います。

まず、はじめに、「いじめ」を4層構造で説明する研究者がいますので、それを紹介します。



<p>被害者 いじめの標的となり、身体的もしくは精神的な苦痛を受ける子ども。</p>	<p>加害者 いじめを行う子ども。単独の場合もあるが、徒党を組むことも多い。</p>	<p>観衆 いじめの現場をはやし立てたり、面白がって見たりしている子どもたち。</p>	<p>傍観者 いじめに対して加担する訳ではないが、見て見ぬふりをしたり、行動を起こさない子どもたち。</p>
--	--	---	--

上記のような図は、他県で使っている小学校の道徳の教科書（可茂地区では使っていません）にも記載されています。傍観者が「勇気ある傍観者」になるためにはどうすればよいかを子どもに考えさせる内容になっています。私が学級担任をしていたころ、上記を人気アニメの「ドラえもん」に例えて説明したこともありました。具体的には、被害者は「のび太」、加害者は「ジャイアン」、観衆は「スネ夫」、傍観者は「しずかちゃん（出木杉くん）」です。その中で私は、「加害者の行為を直接止めるということではなく、いろいろな状況を鑑み、『勇気ある傍観者』になって、それぞれができることをしよう。」と話をしていました。

今回は上述の一般的な指導ではなく、上記の「観衆」について考えたいと思います。

観衆は時に加害者を煽り立て、よくない行動を増長させることがあります。また、裏で加害者を操ったり、自分は害を加えていないからと逃げたりすることもあります。学校では、その点も指導しようとはしますが、子どもは発達段階や状況によっては自分の都合の良いことのみを話す場合があります。また、まれに保護者の方から「直接害を与えたのは〇〇さんでしょ、なんでうちの子が悪いんですか？」とご意見をいただくこともあります。学校における指導で難しく、困ってしまうところです。

しかし、このままほっておいて、よい人間関係を育てることができるのでしょうか。もしかしたら、どこかで同じ過ちを犯し、周りから避けられたり、相手にされなくなってしまうことがあるのではないのでしょうか。学校では、事実に基づいて、その時の気持ちを丁寧に聞き取りながら指導を行っています。このようなことは「ない」とよいのですが、もしも起こったら学校を信じてみてください。これらの経験は、今後同様の場面に遭遇した際、大いに役立つはずで、保護者も教師も「子どもをよりよく育てるため」という共通の目的があるはずで、互いに協力し合い、よりよい子どもの成長につなげていけるとよいのではないのでしょうか!!

さて翻って、ちょっと自分自身を見つめてみましょう。私たちに「観衆」のような姿はないのでしょうか。

- ・一部の事実のみを捉え（切り取って）、それがすべてかのように話をしていませんか。
- ・（事実でない）噂話を聞き、〇〇が悪いと決めつけ、一方的な正義を振りかざした話（投稿、つぶやき）をしていませんか。
- ・当事者の周りで「みんなが困っている」と圧（同調圧力）をかけていませんか。本当に「みんな」なのでしょうか？

頭で分かっている、実際の判断（捉え）を誤ってしまうことは、大人（私たち）にもよくあることです。新聞やニュース、映画、ドラマなど日常のちょっとしたことから、時々、自分自身を振り返ることは大切ですね…。

2月の子どもたちの主な行事

- 2月4日（水）授業参観（白川中）（黒川中）
- 2月18日（水）学習発表会（黒川小） 2月20日（金）授業参観（蘇原小）
- 2月26日（木）授業参観（白川小）かがやき発表会（佐見小）
- 2月27日（金）6年生を送る会（蘇原小）